

離島・半島地域振興特別委員会

離島・半島地域のさまざまな課題に取り組む

離島・半島地域は、豊かな自然と独自の歴史・文化を有しています。しかし、離島・半島地域を取り巻く環境は依然として厳しく、人口減少・少子高齢化の進行、航路・航空路の維持、医療や福祉などの生活インフラ整備の遅れなどの課題があります。各地域の状況を十分に把握し、国・関係市町などと連携した対策が必要であり、下記事項について、積極的に取り組むよう、県に対し強く求めました。（意見書冒頭より抜粋）



地形を活かした産業の現地視察

Check! 離島・半島地域の振興対策に関する意見書（今期議論した内容まとめ）

離島・半島地域振興対策

01



長崎市野母崎地区の振興において長崎市恐竜博物館等を拠点とした地域の産業活性化に対し、長崎市と連携し取り組む（抜粋）



有人国境離島法対策および離島地域航路・航空路対策

02



地理的ハンディキャップのある離島に対し、雇用機会拡充事業の展開、航路・航空路の運賃低廉化や、漁業所得の向上対策に取り組む（抜粋）

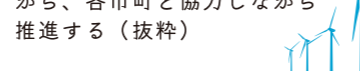


再生可能エネルギー振興対策

03



今後、市場の拡大が見込まれる洋上風力発電について、新たな産業振興や雇用の場となり、エネルギー地産地消へも寄与することから、各市町と協力しながら推進する（抜粋）



長崎県特有の離島・半島地域の振興を図る！

県特有の地形「離島と半島」は、さまざまな社会経済活動において不利な条件にあたります。しかし、裏を返せば他の地域にはない素晴らしい自然を有し、文化、人的交流など有形無形の財産を持っています。多様性を重視し、持続可能な取り組みを行い、大切な地域の振興にまい進いたします。



ごあいさつ

当選後、初めての委員長を務めさせていただきました。

+PLUS 想いをつなぐ。

■ 昨期の委員会活動

- 西九州新幹線の開業に向け、全線フル規格を目指す
- 情報発信機能としての県庁跡地活用
- 使い勝手の良さを追及する行政DX
- 激甚化する災害に対し安全な避難所整備

■ 離島と半島地域の活性化

地理的特徴ある地域をいかに守っていくか
再生可能エネルギーなど、新たな産業で振興を！

ながさきの玄関口
現在、大変革中です。

西九州新幹線
(令和4年 9月23日 開業)

東口駅前広場
(令和6年 完成予定)

ながさきは100年に1度の変革期！

しもじょう ひるふみ

下条博文

長崎県議会議員（自由民主党）長崎市選出
総務委員会（副委員長）
離島・半島地域振興特別委員会（委員長）

本冊子について

本来であれば、県政報告会などを企画して、皆様お一人おひとりと、直接お会いしていただきたいところですが、コロナ禍の中、集会の開催が厳しい状況が続いています。2021年度の委員会活動において、私かどの様に県政発展を考え行動し、発言してきたのかお伝えしたいと考え、まとめました。ご一読いただければ幸いです。

長崎県議会議員
唯一アプリで
情報配信中!

公式アプリ【インストール】をお願いします! ダウンロードは無料! ほぼ毎日情報配信

<http://shimojo007.com>

下条博文 検索

しもじょう ひるふみ
下条博文 事務所

〒852-8131 TEL: 095-844-7769
長崎市文教町5-17 FAX: 095-844-6278



+PLUS 想いをつなぐ。

長崎はいま、日本の各主要都市を見渡しても、例を見ないほどダイナミックな街の開発が続いています。総務委員会では、大変革期を迎えた長崎の街づくりに対し、新幹線の整備や2次交通含めた包括的な交通対策、県庁舎跡地活用などの街づくり、賑わいの創出、重層的な歴史文化の情報発信・・・様々な取り組みについて議論いたしました。

人口減少・流出という課題に 「産業経済の発展」で立ち向かう！

ある若い学生が「長崎では選べる職業が少ない」とメディアを通じてお話ししていました。県庁所在地である長崎市は本来、**人口のダム機能を有すべき**です。しかし、人口減少・流出に歯止めがかかりません。道路整備・福祉・医療・過疎・災害等の対策に十分取り組みながら、**産業経済の発展**に力を入れ、人口減少対策を講じていきます！



ランドマークとして情報発信基地

昨年11月、野母崎半島にオープンした恐竜博物館。長崎から“古代の恐竜”という目新しい情報発信には、地域活性化のメインコンテンツとして大変期待されています。また、県庁舎跡地から“長崎特有の重層的な歴史”という魅力的な情報を効果的に発信していく機能が計画されています。

産業が伸びるためには、労働力・交通網・資源・新興産業への熱意や発想力などの要因が不可欠。大変革期を迎えた長崎では、まさに産業発展の絶好機！この好機を、人口減少に歯止めをかけ、産業の発展につながるような双方向性の成果をもたらす施策を講じていきます。

伸びていく産業の支援整備

新たな企業の誘致はさまざまな面で即効的に効果を上げていきます。しかし、**最優先すべきは長崎に根づく地場産業の発展**です。例えばデジタル関連や再生可能エネルギー産業など、伸びが予想される産業こそ、地場企業と連携を密に行い、都市開発が進む好機とかけ合わせ、積極的な支援整備に取り組みます。

総務委員会

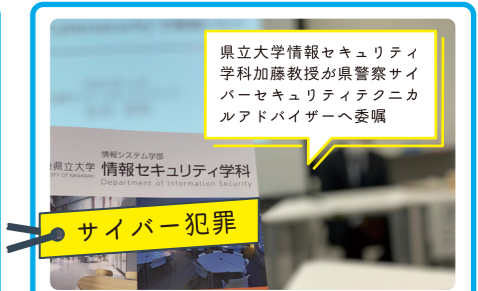
100年に1度の変革期を迎えた長崎の街づくり（西九州新幹線・県庁舎跡地活用・IR誘致ほか）や行政デジタル化、激甚化する災害に対応する災害対策、様々な特徴を有する地域の振興対策、サイバー犯罪対策を含む警察本部など、私たちの生活に直接関係する幅広い内容を受け持つ委員会です。



重層的な歴史の中心地、賑わいの創出と情報発信機能をあわせ持つ



デジタルを用い「使い勝手の良い」行政サービスへ変換していきます



社会デジタル化が進むなか、サイバー空間の安全を確保する重要な施策



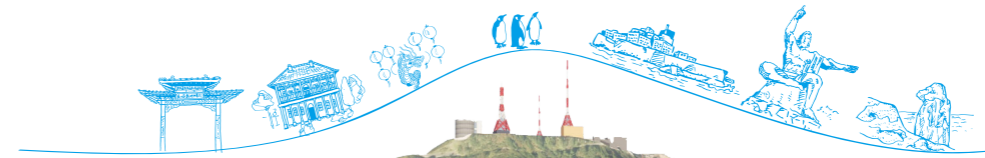
特定複合観光施設（統合型リゾート、IR）区域認定を目指す



過疎地・離島など、地理的ハンディキャップに捉われない振興対策



激甚化・頻発化する災害に対し、国土強靱化や避難所の整備を進める



Point! 今長崎は100年に一度の大変革！

2021年（令和3年）秋には、出島メッセ長崎、恐竜博物館が開業し、2025年（令和7年）までに長崎駅の再開発、長崎スタジアムシティプロジェクト（長崎造船所幸町工場跡）、長崎市役所 新庁舎、松が枝埠頭 2パース化などが開業されます。まさに100年に1度の大変革期！長崎は大きく変化を遂げていきます。

高市早苗 政調会長と長崎の歴史や文化、街の大変革期について、意見交換を行いました。



令和4年9/23開業の西九州新幹線に伴い、大きく変化する長崎駅。令和6年には東口駅前広場も完成します。全線フル規格に向け、県市、官民一体となって取組み、長崎の玄関口として、お出迎え機能や賑わいなど、充実した整備を行って参ります。

ながさきの玄関口
現在、大変革中です。
西九州新幹線
(令和4年 9月23日 開業)
×
東口駅前広場
(令和6年 完成予定)

